

平成30年度

事業計画書

一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団

平成30年度事業方針

平成30年度より、スポーツ施設、健康づくりセンター、札幌国際交流館の第4期の指定管理期間がスタートし、管理施設数は34施設となります。

屋外競技場施設グループにはリニューアルされた平岸庭球場が加わったことから、20面のテニスコートを有効に運用し、様々な年齢層のお客様の利用機会の提供はもとより、国際・全国大会の誘致なども積極的に推進していきます。

また、平成31年4月に移転オープンする新中央体育館は、札幌市民のスポーツ活動を支える中核施設として、各種競技会や大規模スポーツ大会など多様な利用が見込まれており、引き続き、円滑な管理運営に向けた調整、準備が必須となります。

さらに、スポーツ庁が策定した第2期スポーツ基本計画に基づき、現在、見直しが進められている札幌市スポーツ推進計画では、障がい者のスポーツ実施率の向上やスポーツ参画人口の拡大、他分野との連携・協働強化などが盛り込まれ、札幌市のスポーツ行政における当財団の役割は一段と重要なものとなります。

このため、平成30年度は、当財団が長年培ってきた施設の管理運営ノウハウや関係団体とのネットワークを最大限に発揮し各種事業の拡充を図るとともに、冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致活動の機運醸成や共生社会の実現に向けた取組みなど、札幌市の施策に沿った活動を新たな重点項目とし、これらの目標や課題に適切に対応していきます。

併せて、当財団の経営理念である「私たちは、笑顔あふれる未来に貢献します」のもと、市民の健康づくり・スポーツ活動及び国際交流のさらなる推進に努めます。

事業計画

1 指定管理施設の運営事業

札幌市から指定管理者として指定を受けている施設の管理運営を行い、施設の効用を最大限に発揮しサービスの向上を図るとともに、各施設の設置目的を達成するため、「スポーツの普及振興」、「健康づくり活動の支援」、「スポーツ・文化活動を通じた国際交流事業」を推進する。

(1) 札幌市体育施設の指定管理施設

ア 札幌市体育館グループ（13 施設）

北区体育館、東区体育館、白石区体育館、厚別区体育館、清田区体育館・温水プール、豊平区体育館^{※1}、南区体育館、西区体育館・温水プール、手稲区体育館、中央体育館^{※2}、中島体育センター、宮の沢屋内競技場、白旗山競技場

※1 札幌市における施設保全工事のため長期休館（8 月上旬から 1 月下旬予定）

※2 現中央体育館は平成 31 年 3 月に供用廃止となり、移転後の新中央体育館は同年 4 月から供用開始を予定（管理は平成 31 年 3 月から開始）。

イ 札幌市温水プールグループ（6 施設）

東温水プール^{※2}、白石温水プール、厚別温水プール、豊平公園温水プール、手稲曙温水プール、平岸プール

※2 札幌市における施設保全工事のため長期休館（10 月上旬から 3 月下旬予定）

ウ 札幌市美香保体育館

エ 札幌市スケート施設グループ（4 施設）

月寒体育館、月寒屋外競技場、星置スケート場、どうぎんカーリングスタジアム

オ 札幌市屋外競技場施設グループ（4 施設）

円山総合運動場、麻生球場、厚別公園、平岸庭球場

カ 札幌市スポーツ交流施設

キ 札幌市藤野野外スポーツ交流施設

(2) 札幌市健康づくりセンターの指定管理施設（3 施設）

中央健康づくりセンター、西健康づくりセンター、東健康づくりセンター

(3) 札幌国際交流館

2 学校施設の開放事業／受託事業

札幌市内の学校施設を開放し、市民のスポーツ・文化活動を支援する。

(1) センター管理校

体育館開放（172 校）、グラウンド開放（32 校）、格技室開放（16 校）、文化活動練習会場学校開放（16 校）

(2) 自主管理校

体育館開放（111 校）^{※1}、グラウンド開放（2 校）、テニス開放（1 校）

※1 みなみの杜高等支援学校（南区）を障がい者スポーツ専用施設として開放

(3) プール開放（200 校）

3 地域スポーツ普及振興事業／自主事業

(1) スポーツ教室事業 (5,800 事業 92,000 人)

体育・スポーツ施設において、技術の向上や、健康・体力づくりを目的とし、競技団体から推薦された指導員やインストラクター、当財団指導員により幅広い世代に対応した参加しやすい教室事業を開催する。継続的な運動の機会を提供する一般事業のほか、財団独自の取り組みによる高等教育機関・専門機関・地元プロスポーツチームと連携した専門性の高いプログラムの開発や、地域のニーズに応じた短期、通年型、少人数制、文化活動など幅広い教室を実施する。

また、札幌市の気候をいかしたウインタースポーツ活性化のための教室 (170 事業 8,000 人) や管理施設以外で、市内の自然環境を活かしたアウトドアの教室 (13 事業 122 人)、学校体育施設を利用した教室 (7 事業 140 人) を実施する。

(2) スポーツ大会、スポーツイベント事業 (130 事業 26,000 人)

体育・スポーツ施設において、「体育の日無料開放」や「さっぽろスポーツ DAY」の無料開放をはじめ、地域のスポーツ活動の支援となる大会、イベント事業を開催する。

また、参加者の交流と継続意欲を高めることを目的に、スポーツ教室受講生を対象とした大会や、供用時間外に行う朝野球大会、スポーツナイトリーグなど、複数の管理施設合同の事業 (18 事業 2,200 人)、ウインターレクリエーション活性化のための大会、イベント (9 事業 900 人) を実施する。

(3) スポーツキャラバン事業 (19 事業 1,800 人)

町内会、PTA や企業などが行うスポーツ・健康づくり活動の促進を目的に指導者の派遣、スポーツ用具の貸し出しなどを行う。

(4) ウォーキングステーション事業 (14 コース 900 人)

管理施設をスタート・ゴール地点とした、国際市民スポーツ連盟 (IW) のイヤラウンドコースを設置し、距離の認定を行う。

4 健康・スポーツ受託事業

(1) 歩くスキー常設コース事業 (白旗山 2,400 人、中島公園 6,300 人)

冬季間、歩くスキーの常設コースを白旗山競技場と中島公園に設置・管理するとともに、中島公園でスキー用具の無料貸し出しを行う。

(2) ウインタースポーツ塾運営業務事業 (240 人)

札幌市からの受託事業として、市内在住の小学生を対象に、幅広くウインタースポーツに親しみきっかけをつくり、少年団等の団員獲得に向けた橋渡しを行い、競技人口の拡大を図る。

(3) 障がい者スポーツの促進に関する事業

ア 各区体育館における障がい者スポーツの専用利用開放ニーズ調査

各区体育館において、障がい者が気軽に利用できる障がい者スポーツの専用利用開放を行い、障がい者のスポーツ施設利用の拡大を図るとともに、利用者アンケートを行い、利用のニーズについて調査を行う。

イ 冬季障がい者スポーツ体験イベント事業 (500 人)

月寒体育館、月寒屋外競技場、どうぎんカーリングスタジアムが施設間合同事業として実施する「雪に氷にふれよう！わくわくウインターフェスタ」において一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会をはじめとする関係団体と連携しながら、障がい者スポーツへの理解促進と裾野の拡大を図るため、パラアイスホッケーや車いすカーリングなどの体験イベントを実施する。

ウ 冬季障がい者スポーツの指導者養成事業（50人）

障がい者スポーツの中でも特に指導者が不足しているウインタースポーツに関して、以下の養成講習会と指導の場となる体験会を実施する。

(ア) シットスキー指導者養成講習会及び体験会（中島公園）

(イ) バイスキー指導者養成講習会及び体験会（藤野野外スポーツ交流施設）

5 健康・体力づくり相談事業

(1) 健康増進・運動指導事業／指定管理事業（健康づくりセンター）

ア 健康増進・健診事業（8事業 6,640人）

健康づくりセンターにおいて、健康状態の把握に必要な検査と体力測定及びこれに基づき生活・栄養・運動などの総合指導プログラムを提供する「健康度測定」と受診機会の少ない18歳～39歳の女性を対象に骨粗しょう症検査を含む健康診断「女性のフレッシュ健診」を行う。

また、保健師、管理栄養士、理学療法士による各種相談事業を行う。

イ 運動指導事業（63事業 60,800人）

市民の健康づくり活動の実践の場として健康増進を図るため、運動フロアにて運動機器の利用指導や「エアロビクス」「筋トレ」などの自由参加プログラム、「ウォーキング講習」、健康度測定受診者などへの個別運動指導を行う。

また、各区保健センター主催の生活習慣病予防教室などの健康づくりに関する事業に運動指導員を派遣し、運動の実践指導を行う。

(2) 健診・指導業務／受託事業

ア 健診事業（3事業 400人）

中央健康づくりセンターにおいて、各保険者が行う「特定健康診査」のほか、受診希望者に対して「大腸がん検診」及び「緊急肝炎ウイルス検査」を実施する。

イ 指導業務（7事業 177人）

国保加入者で特定健康診査の結果により「特定保健指導（積極的支援・動機づけ支援）」の対象となった方に、生活習慣の改善を目的に保健・栄養・運動指導による支援を行う。

また、国保加入の特定保健指導参加者で「運動お試し券」を持参した方に、運動の目安や運動機器の操作方法などの個別運動指導を実施する。

(3) 自主事業

ア 健康づくり活動の支援事業など（461事業 12,670人）

健康づくりセンターにおいて、市民を対象に健康・体力づくりをはじめ、生活習慣病や膝痛・腰痛の予防などを目的とした教室や健康づくり活動に対する動機づけとなる講習などを行う。

また、地域団体等が実施する健康づくりに関する講座へ健康運動指導士、理学療法士などを派遣し、実技指導や健康講座などを実施する。その他、健康度測定受診者対象のオプション検査等の実施や運動指導従事者等を対象とした研修会を開催する。

6 国際交流推進事業

(1) 国際交流事業／指定管理事業（24事業 4,180人）

札幌国際交流館において、世界ふれあいひろばや留学生のスポーツ交流会等、JICA や公益財団法人札幌国際プラザと共催で、市民と外国人がスポーツ・文化活動などを通じて相互理解及び親善を深め、国際交流を推進する事業を実施する。

(2) スポーツ教室事業等／自主事業（290 事業 3,900 人）

技術の向上や、健康・体力づくりを目的とし、競技団体から推薦された指導員やインストラクター、当財団指導員により教室事業を開催し、継続的な運動の機会を提供する。

7 地域コミュニティ活性化事業／自主事業（70 事業 23,000 人）

区役所、商店街組合、町内会などと連携して、地域活性化の活動・イベントに運営参画するとともに、施設近隣の住民を対象とした水上安全無料講習会などの啓発事業を実施する。

8 情報提供及び調査研究事業／自主事業

(1) イベント・教室などの募集情報の提供

各種媒体の活用により、健康・スポーツ及び国際交流に関する情報を積極的に発信し、施設の利用を促進する。

(2) 財団広報誌「ヘルス&スポーツライフ」の発行

施設の利用促進や市民へのスポーツ・健康づくり及び国際交流に関する情報を広く提供するため、広報誌「ヘルス&スポーツライフ」(Health&Sports Life：年4回、各10,000部)を発行する。

(3) 財団ホームページにおける情報の提供

年齢や障がいの有無などに関わらず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページの実現を目指し、ウェブアクセシビリティとユニバーサルデザインの向上を図る。

(4) 医科学的な調査研究及び分析並びに成果・情報の提供

健康・スポーツに関する調査研究を行い、医科学的根拠を持った情報・プログラムを市民、関係機関へ発信する（北海道新聞社主催～「プラチナスクール」における講義講師就任など）

9 スポーツ大会・イベントの開催／自主事業

(1) 第41回北海道を歩こう（札幌市補助事業）

札幌市立真駒内中学校をスタートし、真駒内カントリークラブまでの10kmと、支笏湖ポロピナイまでの33kmを歩く初夏の北海道を満喫するウォーキングイベント。

※第41回北海道を歩こうは、通常の支笏湖コース(33km)、真駒内カントリーコース(10km)の他に、北海道命名150年を記念して松浦武一郎が調査で歩いたルート(国道230号)を含む定山溪温泉までの「定山溪コース」(20km)を朝日新聞北海道支社の企画により特設。

開催日：5月27日（日）

会場：真駒内中学校～真駒内カントリークラブ～支笏湖ポロピナイ / 定山溪神社

種目：33km、10km / 20km

参加者数：2,000人 / 300人

(2) 6時間リレーマラソン2018in札幌ドーム

1周2kmの札幌ドーム特設コースをチームでたすきをつなぎながら走るリレーマラソン。

開催日：7月8日（日）

会場：札幌ドーム

種目：6時間リレーマラソン、42.195kmリレーマラソン

参加者数：10,000人

(3) 第 43 回札幌マラソン大会（札幌市補助事業）

ハーフマラソン及び 10 km は日本陸連公認コース。

開催日：10 月 7 日（日）

会場：真駒内セキスイハイムスタジアム他

種目：ハーフマラソン、10 km、5 km、中学生、小学生、ファンペア、車イス

参加者数：15,000 人

(4) 第 39 回札幌国際スキーマラソン大会（札幌市補助事業）

世界的なクロスカントリースキーの普及を図る連合体「ワールドロペット」に加盟する国内唯一の大会。毎年、海外からも多くの参加がある。

開催日：2 月 3 日（日）

会場：札幌ドーム、旧西岡オリンピック記念競技場を含む周辺コース

種目：スキーマラソン 50 km・25 km、歩くスキー 11 km・5 km・3 km、キッズチャレンジ 100m

参加者数：2,000 人

(5) スポーツ大会・イベントとの連携・協力事業

ア ミズノエンペラーカップ 2018（5 月 6 日）

イ 第 12 回さっぽろトリム&ラン（6 月 10 日）

ウ 第 22 回北の都札幌ツデーウオーク（6 月 23 日・24 日）

エ 2018 札幌 30K（7 月 7 日）

オ 2018 北海道マラソン（8 月 26 日）

カ 大通公園ウインタースポーツフェスティバル（2 月中旬） 他

10 物品販売・貸付及び飲食店業／自主事業

施設利用者に対する利便向上を目的に、売店・レストランや自動販売機を設置するとともに、コインロッカー・スポーツ用品の貸し出しを行う。

11 その他事業

(1) 冬季オリンピック・パラリンピックの招致への協力

2020 年東京オリンピック・パラリンピックムーブメントの機運を高め、札幌の招致につなげるため、札幌オリンピックミュージアムとの共催事業として「オリンピック・パラリンピック巡回展」を各施設のロビーにおいて開催する。

(2) 関係団体との連携・協力事業

ア 「スポーツ・フォー・トゥモロー」コンソーシアム会員への登録

2020 年東京オリ・パラ招致活動の過程において、2014 年から 2020 年までスポーツ分野における日本政府の国際貢献策として打ち出した国際公約のひとつであり、日本政府が推進するスポーツを通じ、世界のより良い未来を目指し、スポーツ価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取組みの一環として札幌国際スキーマラソン大会などを認定事業として登録するとともに、発展途上国へのスポーツ用品の提供により、同施策の拡大・促進に協力する。

イ 「さっぽろグローバルスポーツコミッション」への参画

平成 28 年 3 月に設立された「さっぽろグローバルスポーツコミッション」の運営に参画し、北海道・札幌の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより、国際大会や事前合宿、スポー

ツイベントの誘致活動を通じて、国内外へ国際都市札幌の魅力を発信するとともに、インバウンド振興など交流人口の拡大を図る。

ウ 北海道歩くスキー協議会の運営

北海道内の歩くスキー、クロスカントリー15大会が加盟している同協議会の事務局を担い、大会相互の連携と発展を図る。(ニセコスキーマラソン大会が新たに加盟)

エ スポーツボランティアの育成支援

スポーツイベントの活性化を図るため、NPO 法人日本スポーツボランティアネットワークに加盟し、スポーツボランティアを育成して活動を支援する。

オ 「事業連携包括協力協定」の締結

北翔大学との間で、学生が札幌マラソンなどの運営に携わる「事業連携包括協力協定」を継続し、スポーツイベントの活性化を促す。

カ スポーツ・運動指導者及び施設運営管理者の育成

公益財団法人日本体育施設協会及び順天堂大学などとの連携により、「体育施設運営士養成講習会」及び「スポーツ救急手当講習会プロバイダーコース」を開催し、健康・スポーツ施設の運営管理者及び指導者を育成する。

キ プロスポーツへの貢献事業

札幌市を拠点として活動する北海道コンサドーレ札幌、エスポラーダ北海道、レバンガ北海道の活動を支援するとともに、協働イベントの開催を通じて地域スポーツの振興と市民との触れ合いの場の創出を図る。

ク 職員の派遣、役員就任など

一般財団法人札幌市体育協会へ職員を派遣し、団体の活動を支援するとともに、関連団体が主催する健康・スポーツ事業への役員就任や後援などを行い、スポーツの普及振興と健康づくり活動を支援する。

また、今後札幌市で開催される様々な大規模スポーツ大会の運営ノウハウの習得などを目的として、札幌市スポーツ局へ職員を派遣する。

(3) 社会貢献及び環境美化活動

ア 環境保全活動

地域の関係団体と連携した河川敷清掃、植栽などの環境美化活動の実施、ペットボトルキャップの回収による世界の貧困に苦しむ子どもたちへの支援活動の実施など、環境保全活動を積極的に行う。また、次世代を担う子どもたちに環境問題の現状と対策を伝えていくため、札幌市の環境教育へのクリック募金や札幌市環境プラザの環境教育プログラムに協力する。

イ 地域防犯活動

札幌市の地域安全サポーターズとして、こども 110 番の店、防犯パトロール、スクールガードなどの地域の防犯・安全活動を行い、安全・安心で結ばれる優しいまちづくりに協力する。

ウ 地域への安全なスポーツ環境の提供

さっぽろ救急サポーターとして、各施設に応急手当のできる職員を配置し、事故発生時に迅速に対応できる体制を整え、救命率の向上に協力する。また、水泳安全講習会や水上安全講習会などを開催し、地域の安全・安心なスポーツ活動の実施に協力する。

エ インターンシップなどの推進

インターンシップや職場体験学習を積極的に受け入れ、学生の職業観の醸成と社会人として自主的に考え行動できる人材の育成を支援する。

オ 障がい者就労施設などへの協力

障がい者就労施設（障がい者支援施設、就労継続支援B型事業所など）から物品購入、印刷発注などを行い、地域の福祉施策へ積極的に協力する。

カ サッポロスマイルパートナーズへの会員登録

「魅力都市さっぽろ」を広く発信し、「笑顔になれる街」の実現に向けて、札幌市のシティプロモート活動に協力する。

キ さぼーとほっと基金への寄附

町内会・ボランティア団体・NPOなどが行うまちづくり活動を支える札幌市の取り組みに賛同し、各施設に設置している自動販売機の売上げの一部を同基金へ寄附する。

ク 募金活動

社会貢献や地域支援などを目的とした関係機関との連携支援として、盲導犬育成支援募金及び東日本大震災復興支援募金、熊本地震災害募金などに協力する。

ケ 献血への協力

日本赤十字社の「献血サポーター」として登録し、献血へ積極的に参加することを全職員に呼びかけ、医療に必要な血液の安定的な確保に協力する。

(収支見込)

収入予定	4, 248, 630, 000円
所要経費	4, 259, 817, 000円